



地域医療振興協会 湯沢町保健医療センター

センターだより 12月号

～ 歩み寄り かける言葉に 心が通う ～



〒949-6101 新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢 2877-1

TEL (病院) 186-025-780-6543 (歯科) 025-780-6544

(人間ドック・健康診断) 025-785-5005

URL: <http://yuzawa.jadecom.or.jp> Mail: yuzawahp@jadecom.jp



今月の専門外来診察日



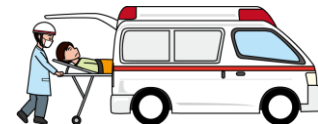
診療科	医師	曜	診察日・その他
禁煙外来	常勤医	火・金 (各午後)	完全予約制になります。 お電話にて予約してください
コンタクト外来	岸田	木	10日、24日 (お電話にて予約してください)
小児科 (アレルギー)	中島	金	4日 (午後は予約患者様のみ)
口腔外科	戸谷 野田	9日(水)、17日(木)	歯科・口腔外科は予約制となります。 ☎025-780-6544 にお電話ください。

今月の休診予定



日	曜	診療科	医師	日	曜	診療科	医師
1	火	地域家庭診療部	井上	14	月	地域家庭診療部	井上
2	水	地域家庭診療部	西谷	14	月	地域家庭診療部	浅井
3 午後	木	整形外科	高田	14	月	眼科	寺内
4	金	整形外科	川口	14	月	歯科	笠原
5・19	土	歯科	笠原	16	水	地域家庭診療部	西谷
8	火	地域家庭診療部	土屋	17	木	地域家庭診療部	鈴木
10	木	地域家庭診療部	鈴木	28 午後	月	地域家庭診療部	浅井
11	金	地域家庭診療部	鈴木	12/29~1/3		年末年始の為、全科休診となります	

年末年始救急体制



当センターでは、12月29日(火)～1月3日(日)までの休診日においても24時間救急診療を行う体制をとっています。郡市内の救急当番になっていない日(町の広報で当番となっていない時)でも、救急の患者様には総合診療科医師が対応しております。センターを救急で受診される時は、必ずお電話でご相談ください。受診される際は、現在飲んでいる薬がわかるもの(お薬手帳など)をご持参ください。繁忙期につきお待たせすることもあります。ご理解と、ご協力のほどよろしくお願いいたします。通常診療は12月28日(月)まで、年明けは1月4日(月)からとなります。

浅貝出張診療



下記の日程で冬季浅貝地区出張診療を行います。受診を希望される方は診療日前日までにセンターまでお電話ください。お電話がどなたからもない場合は、休診となりますので予めご了承下さい。

【診療日】平成28年1月14日・28日	} いずれも木曜日となります。
平成28年2月25日	
平成28年3月10日・24日	



【場 所】浅貝公民館
 【時 間】14時30分～15時30分
 【その他】診療日前日までに湯沢町保健医療センターへお問合せ下さい。

研修医師紹介



東京北医療センター初期研修医2年目の村木英里と申します。昨年度の1月にも研修をさせて頂き、湯沢町の方々とたくさんかかわることができ、色々なことを学ぶことが出来ました。今回は12月と1月、研修させて頂きます。まだまだ未熟な私ですが、少しでも皆様のお役に立てますよう頑張ります。2ヶ月のあいだ、よろしくお願ひいたします。



【11/30～1/30 東京北医療センター 医師 ^{むらき えり}村木 英里】



はじめまして、1年目研修医の棕本悠嗣です。1ヶ月間、湯沢町でお世話になります。雪国という湯沢の生活、医療の側面をしっかりと見て、どっぴりと満喫したいと思っております。できる限りのことを学んで奈良に持ち帰りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【11/30～12/28 市立奈良病院 医師 ^{ならもと ゆうじ}棕本 悠嗣】

ご意見



◇ 去る10月末日救急にてお世話になりました。旅先の私たちに安心と勇気を与えてくださり厚く御礼申し上げます。その後無事、復津できましたのも貴センターの職員各位のおかげと感謝しております。（一部割愛させていただきました。）



【大津市 60代 男性】

◇ 病院はいつもきれいに掃除してあり気持ちよく利用しています。【70代 女性】

⇒御意見ありがとうございました。これからも皆様に愛される病院になるよう努力いたします。

【地域連携室兼患者相談室 室長 高橋】

インフルエンザ等感染症流行時における 入院患者様への面会に関するお願い

当院では、入院中の患者様への感染拡大防止のための措置として、インフルエンザなど感染症流行時には、入院患者様と同居するご家族以外の面会を制限させていただくことがあります。

面会を制限させていただく方

- ・ 入院患者様の同居するご家族以外の方
- ・ ご家族であっても小学生までのお子様
- ・ ご家族であっても以下の方
 - (ア) 発熱（微熱も含む）、咳、鼻水、咽頭痛、下痢、嘔吐等の症状のある方
 - (イ) インフルエンザ等の感染症の可能性のある方
 - (ウ) 学校、職場、同居する家族に上記の感染症状がある方



- 面会される方は**マスクの着用、手指衛生、面会簿の記入**の上、**短時間**でお願いいたします。
- 重篤な患者様の面会等は状況により対応しますので、**必ず病棟看護師にお尋ねください。**

入院中のみなさま、ご家族のみなさまにご迷惑をおかけしますが、院内感染防止のためご協力よろしくをお願いいたします。

【センター長 浅井 泰博・院内感染防止対策委員会】

インフルエンザ予防接種 まもなく終了です！

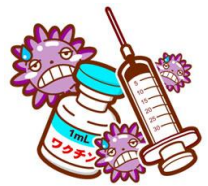
※詳しくは別紙、『インフルエンザ予防接種のお知らせ』をご確認下さい。

接種期間 平成27年12月12日（土）まで
 月曜日～土曜日（祝日、日曜日以外）
 ※ ワクチン等の関係でお休みをすることがございます。
 ※ 小学生以下の方は1回目を12月5日までに接種ませてください。

受付場所 ホスピタルストリート（正面入口左側）または総合受付

受付時間

月曜日～金曜日	15時15分～16時30分	接種開始	15時30分
土曜日	9時15分～11時00分	接種開始	9時30分



料 金

接種対象者	1回	接種対象者	1回目	2回目
町内 65 歳以上（接種券持参）	1,620	3 歳以上小学生以下	2,000	2,000
一般（中学生以上）	3,000	6 ヶ月以上3 歳未満	1,500	1,500

- ※ 小学生以下は原則 2 回接種となります。1 回毎のお支払いをお願いします。
- ※ 2 回目の接種日が 3 歳の誕生日の前と後では、料金が異なります。



今月の話題

誤解です



そんなこと言われたって・・・
 ～～ 東京の空の下から ～～

私の所に定期的に通っている患者様が奥様を亡くされたそうです。(プライバシー保護のため、話の本筋に関係ない所は脚色いたします。) 診察室で不平不満をぶちまけて行きました。いわく、「退院してたった2日後に突然亡くなってしまったんですよ。悪いのは肝臓だったのに、血を吐いて死んでしまうなんて。透析をしていたから長生きするとされていたのに・・・」で悪い医学生や新米医師がこんな事を言ったら、その無知を厳しく叱責する所ですが、一般人にそこまでの医学知識は要求しません。この患者様にも優しく解説はしましたが、当然の事ながら知識不足に基づく不適切な不平不満をなじったりはしませんでした。

それにしても、「透析をしていたから長生きするとされていたのに」という誤解は初めて聞きました。自分の腎臓で命を保てなくなったから透析になったんですよ。透析をすれば、弱り切った腎臓をそのまま放置するよりは当然長生きできますけど、健康な人より更に長生きできる訳ではないんですよ。と説明したら、そんな話は初めて聞いたとばかりに、とても驚いていました。腎臓が弱くなってしまって粘りに粘った末に遂に透析となった段に、「これで長生きできるから」とか言われたんでしょう、きっと。でも、わざわざ「ただし健康な人より更に長生きできる訳ではありません」なんて普通説明しないですよ。医者常識は一般人常識ではない、と言う事ですね。因みに透析になった人の寿命は健康人と比較して遥かに短いです。本物の腎臓には適う訳ありません。無理矢理何とか命をつなぐ程度と言ってもよいでしょう。(そんな言い方したら、腎臓の専門の先生には怒られるでしょうか。) 悪かったのは肝臓なのに血を吐いて死ぬなんて、と言うのも、医者の立場からすればまったく意外でも何でも無い事。医者にとってどのくらい常識かと言うと、肝臓専門医でなくても、内科医でなくても何科の医者でも知っている。更には医師免許を取る前の医学部の学生でもこれを知らなければ卒業させてもらえない、バカにされ、叱責されるレベルの常識です。でももちろん一般人にこの知識を要求はしませんが、その代わり、こういう亡くなりかたをして、医者を無能呼ばわり、不届き者呼ばわりされましてもねえ。ある程度肝臓が悪ければ、血を吐きそうな事になっていないかどうか、専門医でなくても普通の医者でも、言われなくたって検査しますよ。そしてできることなら、血を吐くようなはめに陥らないように処置しますよ、言われなくても。その処置というのも、色々あちこち弱い人にとっては結構命がけです。あまりに危険なので敢えて行わないというのも選択肢の一つです。血を吐きそうな事くらいわかっていた、処置は危険で行えなかった、だからいつ血を吐いて危険な状態に陥っても、病院の側としては何ら意外ではなかった、と言う事なのでしょう、きっと。別に珍しい話ではありません。

何がボタンの掛け違いにつながったかと敢えて推測すれば、事前の説明不足なのではなかろうか。それとてよその病院の事ですから真相は知りません。奥様が亡くなられた病院と言うのは、とても丁寧な診療で評判も高く、私も手に負えない患者様をしょっちゅうお願いする病院です。それにこのご時勢”こんなふう”に”言われたのではたまったものではありませんので、病院側としても前もって、あんな危険性もあります、こんな危険性もあります、と長々と話をします。覚えてなかったことを悪いとは言いませんが、あまりにあれこれ言われて一々覚えてなかっただけなのではないでしょうか。これもまたよその病院の事なので真相は知りません。事実と異なったら失礼いたします。この旦那さん、あまりに怒り心頭で警察にまで言い付けそうな勢いだったので、「そんな厳しい方でしたら、私はとても担当できませんね」と申し上げました。嫌味でも当て付けでもありません。そうしたら言下に「いやいや、先生でしたら大丈夫。信頼してますから」と。信頼を頂いている事に不満はありませんが、その信頼、一体どこから出て来ているのやら。その旦那さんを死の淵から救った事があるとかいう事は全然なくて、普通の医者でも担当できるような大して難しくない高血圧を診ているだけなのですが。

この旦那さんには、全く部外者の私から説明をする事ができ、どうやらせめて理屈だけでも納得した様子でした。同じ話を奥さんの主治医から聞いても、多分聞く耳持たなかったでしょう。小欄のネタにされる程の、ここまで見事な誤解も久しぶりですが、ここまで見事でもない細々とした誤解に基づいて鬱憤を募らせている患者様および患者ご家族は、きっと沢山いる事でしょう。医療紛争に関しては、主治医および病院自ら患者様および患者御家族に説明を尽くすことなどと言われますが、絵空事としか思えません。多分読者諸氏も、自らが加害者認定している相手の話など、信用する気になれないでしょう。ちゃんと話をしろ、という要求よりも、愚痴を言わせろという気持ちに近いのではないのでしょうか。あくまでも誤解に基づいている場合の話ですが。誤解だと自分でわかるのは難しいので、制度的に第三者が間に入って公平な立場から話をした方がいいと、私は本音では思うのですが、まあ、それこそ絵空事、そんな制度が実現するわけありませんね。誤解に基づくつまらないいざごさは永遠になくならないでしょう。

【台東区立台東病院 医師 今井 康友】